



なんでもねん

発行責任者 倉橋 忠



No.54

学年末試験を振り返ろう

学年末試験が終わりましたね。

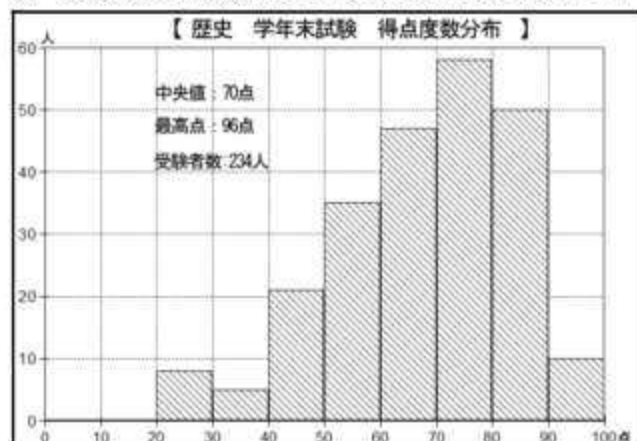
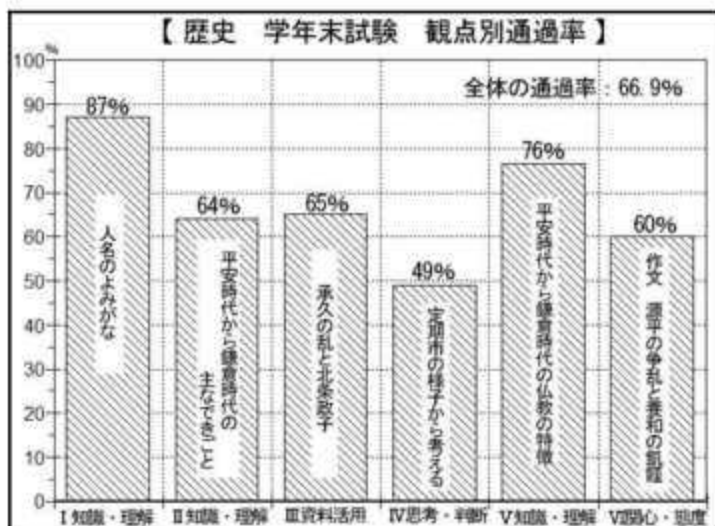
歴史の試験の出来具合はどうですか。普段の学習の成果はでましたか？

君たちは、この1年間はとても厳しい試験に苦しめられたと思います。高度な問題に挑むことが君たちの学力を高めると私(倉橋)は信じています。そのため、容赦の

ない難しい試験問題を出題してきました。ただし、出題内容はすべて授業内容と、授業内容をふまえた応用問題からなっています。試験の結果は、君たちの授業中の集中力と、普段の復習の積み重ねが決め手になったと思います。いわゆる一般的な「問題集」の模擬問題を使って試験対策をしても役立たなかったでしょう。これまでに何度も伝えましたが、難度の高い定期試験に挑むためには、ノートプリントと教科書の関係をていねいに「自分で考えながら」復習しておくことが大切でした。

さて、今回の試験でⅡの知識・理解を試す問題で通過率が低いのは、漢字が正しく書けない人が多かったことが主な原因です。とても残念です。ノートを書く際に、板書や教科書をしっかり見ることが基本です。ていねいな学習姿勢を維持してください。

また、Ⅲの資料活用技能を試した問題では、教科書の「北条政子の演説」よりも詳しい史料を使用しました。授業では「教科書の史料では要約されすぎていて雰囲気がつかめないから、少し補足します」として、北条政子の演説と御家人達の様子を私が口頭で解説した内容の史料です。この問題の通過率(正解率)が低かったのは、北条政子の名前が答えられなかった人と、後鳥羽上皇を答えることができなかった人が多かったためです。承久の乱を再度確認しておいてください。



今回の期末試験で正解率が低かった問題。ここがポイントだった

配点：Ⅴの作文以外は、各問2点です。

Ⅰの藤原頼通、北条泰時、最澄、法然、親鸞は必ず読めるようにしておいてください。

Ⅱは年表形式で、平安時代から鎌倉幕府の滅亡までをまとめました。正解を導き出すために、1問も年号を覚えておく必要はありませんでした。各小問がヒントになっていましたので、小問に答えることができれば年表を完成させることは難しくありません。残念なのは鎌倉幕府の「鎌」を正確に書けない人が多くいたことです。また、荘園の農民が地頭と荘官との二重支配に苦しんでいたことを忘れていた人が多かったことが気になりました。源頼朝が鎌倉に幕府を開いたことを答えることができない人が多かったのは驚きました。なお、上皇が院政を行ったことについてはよくできていました。

Ⅲでは、奉公を「奉行」と答えた人がとても多かったことが残念でした。

Ⅳは、応用問題です。定期市が成り立つための条件を考えることができるのか、女性の地位について「御成敗式目」の条文から読み取れるかどうかを試しました。

(1)の正解率はとても高かったです。(2)では、農民がお金を手に入れるために売ることができたのが米でした。二毛作で麦を食べることができるようになると米を売ったと考えることができれば、イが誤りだと分かります。(3)は、定期市では道路を使って運ばれた様々な地方の特産物が売られたことに気づくことができれば、イが誤りだと分かります。また、(4)では、草木灰は自然界の草や木を燃やすと作ることができるので、草木灰を買うことは考えにくいですね。(5)では、北条政子が幕府を統率していたことを考えると、アが誤りだと分かります。

Ⅴは、平安時代から鎌倉時代に信仰された仏教の特徴と歴史を理解しているかどうかを試した問題です。かなり、通過率(正解)は高い結果になりました。しかし、平安時代に登場した「浄土教」を「浄土宗」と混同している人が多く見られました。末法思想については多くの人が理解できているようでしたが、平安時代の浄土教の特徴である、阿弥陀如来(阿弥陀仏)の救いにすがって極楽浄土に行こうとする思いを起点にしておく必要がありました。

Ⅵの作文問題は、前回よりも厳しい採点基準で採点しました。歴史的なできごとを考えるためには、**原因と結果の関係を考えることがとても大切なこと**になります。今回の作文では、源氏と平氏の争乱が養和の飢饉を拡大する原因だったことを指摘できているかどうか**が重要なポイント**でした。そのために、「背景を簡単に説明」することを問題文で求めていました。事前の準備段階でそれに気づくことが大切でした。詳しくは、次号の「**なんでやねん**」で解説します。